

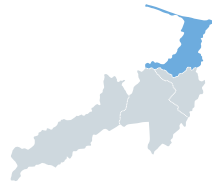
平成25年度 第3回

常呂まちづくり協議会資料

- 北見市総合計画後期基本計画について・・・〔P1～P4〕

常呂まちづくり協議会

3 常呂自治区



● 地域の特性

常呂自治区は、オホーツク海やサロマ湖、北海道遺産のワッカ原生花園や世界文化遺産登録を目指す「史跡常呂遺跡」などの自然環境とつくり育てる漁業や畑作三品を主とする大規模農業など、安定した産業を維持しています。

また、「サロマ湖 100km ウルトラマラソン」の実施や、冬季のカーリングでは3大会連続してオリンピック選手を輩出するなど、人と自然を活かしたまちづくりが進められています。一方では、常呂川の最下流域として、またオホーツク海に面していることから、洪水や津波、海洋汚染などの災害の可能性が高い地域でもあり、さらなる防災対策の充実が急がれています。

● 整備イメージ

- つくり育てる漁業と大規模畑作農業*が盛んな地域
- オホーツクの豊かな資源を活用した観光とスポーツで賑わう地域
- 古代からの文化遺産を大切に市民活動が盛んな地域
- 各種の災害に対応した、安全・安心に暮らせる地域

● 施策の展開

①豊かな地域資源を活かした産業の推進

基幹産業である漁業にあつては、グローバルな視点に立つて衛生管理型漁港の整備を積極的に進めるとともに、新たな資源の開発を目指します。また、農業にあつては引き続き土地改良事業や担い手の育成、幹線排水路の整備などを進めます。

②公共施設の再整備と災害に強いまちづくり

さまざまな公共施設が整備されている一方で、それら施設の老朽化が進んでいることから、計画的な改築・修繕を図ります。また、既存施設の有効活用を図ることにより、市民の多様な活動と交流を進めるとともに、道道北見常呂線の早期完成や道道土佐東浜線の拡幅整備など災害に強いまちづくりを目指します。

③学術的な観光拠点の整備

オホーツク圏を代表する観光地であるサロマ湖・ワッカ原生花園の集客力を高めるための周辺環境整備を行なうとともに、「史跡常呂遺跡」の世界文化遺産登録を目指す取り組みをさらに推進します。



● 主要な事業

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| ■ 道営畑地帯総合整備事業 | ■ 「史跡常呂遺跡」公園整備事業 |
| ■ 道営基幹水利ストックマネジメント事業 | ■ 地域文化交流センター整備事業 |
| ■ 水産基盤整備事業（常呂漁港） | ■ 常呂町スポーツセンター整備事業 |
| ■ 常呂町南町 11 号線道路整備事業等 | ■ 常呂地区特定環境保全公共下水道事業
（雨水管渠・汚水管渠） |
| ■ 雪寒補助建設機械更新事業 | |
| ■ 常呂中学校校舎整備事業 | |

*大規模畑作農業…広い耕地で機械を活用して畑作を行う農業形態のこと。

**自治区別のまちづくり
（常呂自治区原案）**

自治区の特性

常呂自治区は、オホーツク海とサロマ湖に面し、世界文化遺産登録を目指す「史跡常呂遺跡」や北海道遺産の「ワッカ原生花園」を有するなど、自然と歴史に優れた地域となっています。

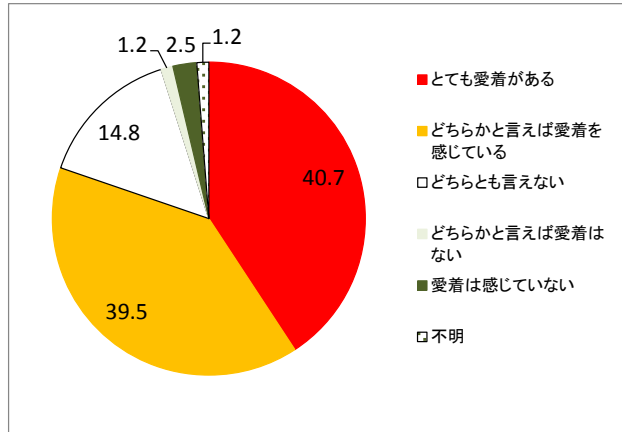
農業と漁業を基幹産業とし、カーリングでは多くのオリンピック選手を輩出するなど全国的に有名で、平成 25 年 11 月に日本最大規模の通年型カーリングホールがリニューアルオープンしたところです。

今回のアンケート調査では自治区住民の地元への愛着度はとても高いことが示されておりますが、人口規模は 4 つの自治区の中では最も少なく、少子高齢化が進んでいます。

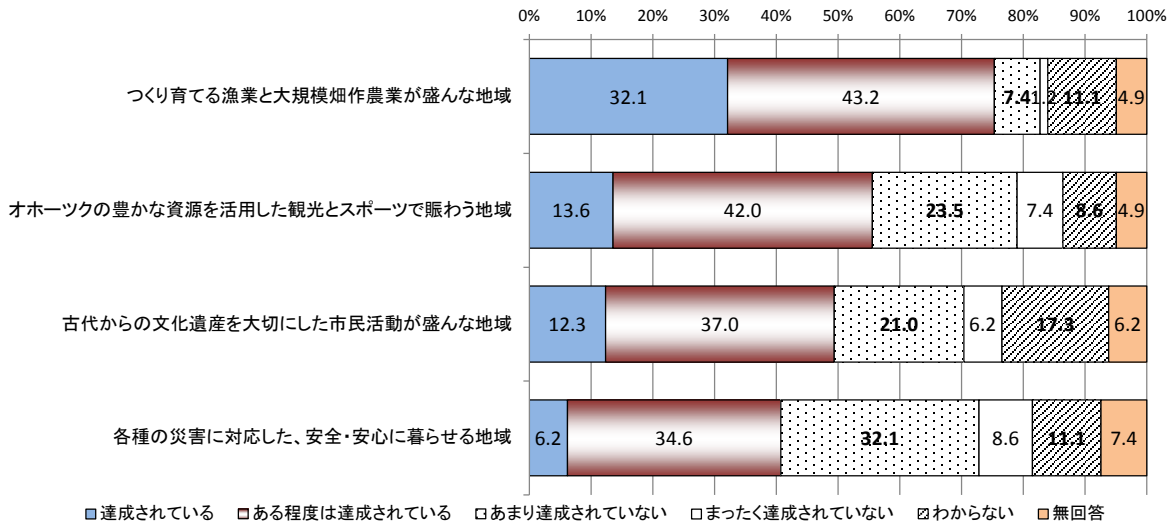
今後も農業と漁業の振興を図り、観光・スポーツ・文化を含めた地域の活性化を推進するとともに、地域の繋がりを大切に作る安全・安心なまちづくりが求められています。

常呂地区の写真の挿入

●自治区住民の地元への愛着度



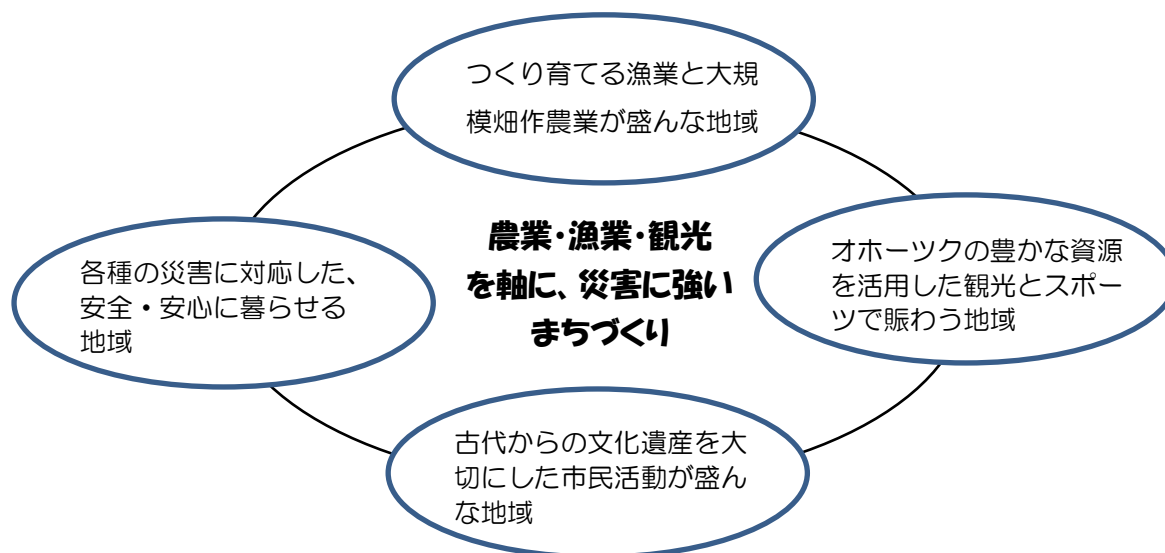
●現行計画で示されている自治区の整備イメージに対する自治区住民の評価



(注): 上記の図は、平成 25 年度に実施した市民アンケート調査結果

自治区の目指す姿と整備方向

常呂自治区の目指す姿としては“農業・漁業・観光を軸に、災害に強いまちづくり”とし、整備方向については前期基本計画で示した4つの方向をさらに充実していくものとします。



今後の重点施策

①基幹産業である農業と漁業の振興

農業については土地改良事業や幹線排水路等の整備を引き続き促進するなど、生産性の向上や農作業の効率化を図ります。また、漁業についてはこれまで進めてきた資源管理型漁業とつくり育てる漁業の促進を図るとともに、常呂漁港の衛生管理体制の拡充を推進していきます。

②自然・歴史とともにカーリングを組み入れた観光の展開

オホーツク海やサロマ湖、北海道遺産のワッカ原生花園といった自然資源や、縄文文化からオホーツク文化の竪穴住居跡群を象徴する常呂遺跡を有しています。さらに、近年はカーリングを通して全国区の地域として知名度が上がっています。

今後は、「自然」、「文化」、「食」、「スポーツ」など地域の特性を活かした新たな観光施策の展開を地域ぐるみで推進していきます。

③地域の繋がりを活かした安全・安心に暮らせるまちづくり

常呂遺跡に象徴されるように、古い歴史・文化を有する当地区は地域の繋がりがや故郷意識が非常に強い地域であります。一方、オホーツク海に面し、常呂川の最下流域であるため、災害に対しては事前の対応が強く求められています。

今後は、地域コミュニティの一層の連携の基に、地域で守り支えあう強い絆と地域住民の健康と福祉の向上を図り、誰もが安心して生きがいをもって暮らせるまちづくりを推進していきます。